



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0856 横浜市神奈川区三ツ沢上町8-5 本間重子気付

電話/FAX 045(323)0653 E-mail wwfk@hotmail.co.jp

HP <http://www3.plala.or.jp/wwt/wwfk.html>

はたらく女性のフロアかながわ(WWFK) 第3回総会を開催

総会議案すべて承認される

はたらく女性のフロアかながわ(WWFK)の第3回総会が7月12日(火)18時30分から、かながわ県民センターミーティングルーム601で開催されました。13名が参加しました。

本間さんから開会あいさつがあり、総会に先立ち阿部健司さん(横浜市社会保障推進協議会)から「介護保険法改定と今後の介護の行方」と題し、記念学習会が行われました。阿部さんは、「今回の介護保険「改正」で、利用者負担の引き上げや軽度者の介護外しをもくろみ、給付の削減をすすめるだけではなく、地域主権とをいっつつ各市町村でのローカルルールづくりが行われるため、自治体による格差が生まれ、サービス低下になりかねない、などの問題がある。しかし、介護の主体は市町村なので、具体的な改善を迫る取り組みが重要。もっと学習や運動を強める必要がある」と強調されました。短い時間でしたが、多くの質問も出され、住んでいる自治体へむけ緊急に働きかけることの認識が深められました。

総会では、小島さんから「2010年度活動報告と2011年度活動方針案」、君嶋さんから「会計報告、予算案」、池田さんから「次期役員提案」が行われ、議案に基づき活発な意見が出されました。おもな意見は次のとおりです。

- サポート活動をどこまでやれるかが課題。事務所維持には財政的負担があった。事務所を閉めたが、今後事務所がない中で、工夫して進めていく必要がある。
- WWT(はたらく女性のタマリバ)とWWFKの違いは?別々に存在する意味があるのか?
- WWTは会員内の学習が中心、WWFKとコラボしていけるのでは。
- 自分自身は、もっと勉強していきたい。おしゃべりする場でもよい。講師には事欠かないので



- 講師活動も進めていったらどうか。
- 会報を充実していく必要がある。
- 会員アンケートが添付されていることに気が付かなかった。隠れた特技などもっと引き出せる内容のアンケートにしてはどうか。
- パンフレットを修正または新たに作って、WWFKはこんなことをしているというPRを。
- 職場交流会はどのようなイメージか。
- 予算の7万円で、やっていけるのか。
- 会報で会員紹介をしてはどうか。
- 財政活動も取り組んでいきたい。
- *頂いた意見はできるだけ今後の活動に反映させていきたいと思います。
- *議案は、参加者の賛成多数で承認されました。
- *2011年度の新役員は、
代表 小島八重子
事務局 浅井優子、池田資子、君嶋千佳子(会計)、伍淑子、紺野貴美子、本間重子、村田泰子
編集委員 池田、本間、小島
また、村田さんが「原発ゼロをめざすアピール(案)」を提案し、承認されました。アピールは、HPなどに公表し、私たちの総意をPRすることにしていきます。

「原発ゼロ」をめざすアピール



3月11日に発生した東日本大震災と津波から4ヶ月がたちましたが、いまだ復旧・復興は進まず、人々の生活は多くの困難を抱えています。さらに、史上最悪の人災ともいえる福島原発事故では、メルトダウンと使用済み核燃料の冷却失敗により、4つの原子炉から大量の放射性物質が拡散され続け、私たちの暮らしと健康を脅かしています。

放射性物質による汚染は、神奈川県内産の足柄茶の出荷停止などをはじめとし、被災地だけでなく、遠く離れた地域でも農産物への影響が広がっています。また、福島市内に住む6歳から16歳の子どもたちを検査したところ、全員の尿から放射性セシウムが検出され、内部被ばくの実態が明らかになり、住民を不安に陥れています。とりわけ妊娠している女性や子どもを持つ親の不安ははかりしれません。放射性物質による汚染は、世代を超え、長い時間放射線被害(被ばく)に苦しむ人々を作り出す危険性があります。国の総力をあげ、福島原発を早期に終息させることを求めるとともに、国に健康への影響など、正しい情報提供を求めていきましょう。

さらに、経済への影響は甚大です。多くの住民が職や家を失い、避難所生活を余儀なくされ、生活の基盤を失っています。とりわけ、働く女性の雇用問題は深刻です。女性の多くは非正規労働者で、医療・介護・保育・給食・サービス業などで働いていますが、介護施設や病院、事業所等の多くが被災し、いまだに施設・事業所等で再開のめどが立っていません。くらしの安定にとって雇用の確保は第一です。私たちは国の責任で最低生活を保障するためにも雇用の場を緊急に確保することを求めましょう。

政府・東電は、「安全神話」が崩壊したあとも、福島原発事故の終息の見通しすらなく、さらに大震災に対応できる「安全基準」の見直しも不十分なまま「原発安全宣言」を行い、夏の電力不足を逆手に取り、休止中の原発運転再開や原発建設の継続を地元自治体などに迫っています。こうした住民を無視したやりかたは許せません。日本の豊かな自然エネルギーの活用を図ることで、原発に頼らない発電をすすめることは可能です。私たちは計画的、迅速な原発廃止と代替エネルギーへの転換を国に迫っていきましょう。

いま、国民の8割が原発の廃炉を求めています。「日本・世界に原発はいらない」「自然エネルギーを活用した発電を」の声や運動は全国に広がっています。ドイツは原発廃止を決め、イタリアでは国民投票で原発凍結が決定しています。広島・長崎、ビキニ、そして福島原発の三度の放射線被ばくにさらされた日本は、世界にその危険性と根絶を訴えかける義務があります。そのために、私たちは「原発ゼロ」をめざす運動に積極的に取り組んでいきましょう。

2011年7月12日

はたらく女性のフロアかながわ第3回総会

日本母親大会・分科会に参加して・・・

会員 伍 淑子

第57回日本母親大会が7月30日・31日の2日間、広島県で開催されました。真夏の暑い日でしたが、全国から集まった人たちが会場は熱気に包まれていました。

私が参加した第24分科会「国連女性差別撤廃委員会勧告の実現を」は、130名余の予想を超える女性たちでいっぱいになりました。

講師は国内運動の先頭で奮闘している日本婦人団体連合会の堀江ゆり会長と国際的に活動されている日本女性差別撤廃条約NGOネットワーク代表世話人の山下泰子さん。この課題では右に出る人

はいないという講師陣です。堀江さんは、昨年从去年から今年に掛けて国内の女性団体や女性たちが政府にもものを言い、国連に報告文書を提出して委員会への傍聴や意見表明に全力をあげてとりくんできたことを発言。山下さんは、国際的に日本政府の問題意識のあまりの低さに比べ、差別撤廃委員会がNGOの意見に真摯に耳を傾け、日本政府にしっかり物を言う姿勢に感動したことなどを語りました。参加者からは、時間が足りないほど各地の取り組みと状況が報告されました。参加者は、国内でも国際的にもNGOの運動の重要性をあらためて認識し、秋に迫っているフォローアップ項目に対する政府報告への運動を強めていくことを確認しあいました。

・・・ベトナム旅行報告・・・



ベトナム反戦運動の意味

会員 浅井優子

6月12日（日）～18日（土）の1週間、同じ仕事をしている仲間15名とベトナムへ行ってきました。「何故ベトナム行か」ですが、私は40年余り前、ベトナム反戦のために青春の血潮をたぎらせた世代です。

近年、「中国は社会主義国ではなくなった」という批判的意見と共に「ベトナムも同じ道を行くのではないか」という懸念を耳にします。

計画経済から経済の市場化（ドイモイ経済政策1986年）、T P P（環太平洋経済連携協定）への参加、原発の導入等々、日本のマスコミにはいかにもベトナムが、第2の中国（中国の評価の是非は別として）になるように、言い換えれば社会主義に対するダメージを印象付けようとしているかのような記事が書かれているのを見て、これは自分の目からでした。訪問をしたのはハノイ市とホーチミン市です。

ハノイはスラムを連想させるような家並みが多くあるように感じました。床屋さんは歩道の塀に30センチ四方の鏡を立てかけ、その前に椅子を置いてチョコチョコやっていました。飲食屋さんも歩道に、箱などの上に板を置いてホーだと思のですが、どんぶりを並べて人々に食べさせていました。歩道のあちこちに作業着を着た女性が立ち、自転車に小振りのパイナップルをいっぱい載せて売っていました。価格は1個60円位だったと思います。

国民1人当たりの年間の所得水準は809ドル（2007年）ということですから、物価は日本とは比べられない位低いです。しかし、私達旅行者には高く売っているように思いました。何しろ、ある品物を7ドルから4ドルに下げさせたとしても、同じ物が別のところでは3ドルだったりするといった具合でした。ベトナムの人達の物腰は柔らかいと感じましたが、商売をしている様子を見ていると、売る

物さえあれば何処でも商売を始めてやろうという粘りとしたたかさが伝わってきました。

「見栄や外聞で飯は食えない」とでも語っているようでした。そういう人達にとっての関心は、今持っているエネルギーの全部を投入して、今日の命を守る

ことであり、一旅行者が勝手に評価する社会主義国家のことなど、多きなお節介とでもいわれているような気がしました。

ベトナムの国土面積は、日本の90%、人口は約8,400万人。10世紀までの千年余りは中国に支配され、19世紀から20世紀までの百年はフランスに支配されました。

1965年からの10年間、アメリカの侵略戦争に対する闘いについては、ハノイやホーチミン市内の歴史軍事博物館や米国犯罪資料館、解放軍地下指令本部のあったクチ・トンネルなどに残されていました。これらの展示物の中に「ベトナム戦争を支援した世界の人々」というコーナーがあり、日本から支援した私達の反戦運動についても大きなスペースを割いて展示され、博物館の正面には世界の人々への感謝も明示されていました。それを見て、私達の反戦運動はベトナムの社会主義建設を、今も依然として応援し続けていると思いました。



「らいてう」は今日も生きている

“『青鞥』創刊100周年記念祝祭 in りいてうの家”
に参加して
会員 本間 重子

100年前の1911年9月1日、「元始、女性は実に太陽であった」というよびかけとともに誕生した『青鞥』を記念するつどいが、9月4日白樺と唐松にかこまれた「らいてうの家」（長野県上田市真田町）で開催されました。

当日の午後は台風の余波をうけて、真田町の高原は気温が低く周りの木立を吹き渡る風がとても冷たく、出演者含めて約400人（主催者発表）の参加者はなんとか冷えを防ぎ風邪をひかないようにと、防寒に工夫しながらつどいを楽しみました。

つどいは、らいてうの家館長の米田佐代子さんの挨拶「平和を願い、いのちの『無限生成』を信じたらいてう、『生きることは行動すること』と訴えたらいてう、そのころざしを受け継いで『青鞥』創刊100年を記念し、明日への希望をつなぎたいと思います」から始まりました。

しなの子どもの幸せと平和を願う合唱、コールフリーデン（上田平和合唱団）の合唱と、小学校教員・区会・都議会議員34年の途中で眼疾のため



退職した後64歳から声楽にめざめた西田ミヨ子さんのすてきな独唱、最後に朗読劇「夏の雲は忘れない」（抜粋）が高田敏江、柳川慶子、長内美那子さんと地元小学生たちによって演じられ、感動のうちに終幕となりました。心配された天候もつどいを支援してくれたかのように、散会した後雨が降り出しました。

その後、地元の木で建てられた温かみのあるらいてうの家の館内を見学し、復元された書斎などゆかりの品や文庫を見て、来年はゆっくり再訪したいものと思いました。

翌日は蚕都上田と塩尻の町歩きを楽しみ、勉強してきました。

公開学習会（介護保険制度問題）・・・パート②

介護現場はどう変わるの？

参加費

500円

介護保険法改定の内容は、利用者負担の引き上げや軽度者の介護外し、給付の削減、自治体によるサービスの格差が生じるなど多くの問題点が浮き彫りになってきました。

また、政府は、「介護職員処遇改善交付金」の継続の可否は年内に決めるとしています。

介護保険制度の改定で、介護労働に従事している人たちの働き方や介護の仕方はどう変わっていくのでしょうか。パート②は、ケアマネージャーさんから介護現場がどう変わっ

ていくのかをお話ししていただきます。

日時 2011年10月21日（金）18時30分～20時30分

場所 横浜市健康福祉総合センター8階大会議室 8 F

JR京浜東北・根岸線、横浜市営地下鉄桜木町駅下車

内容 「介護保険法改定と今後の介護の行方

・・・介護の現場はどう変わるのか・・・」

講師 小松原モト子さん（ケアマネージャー・元医療生協かながわ介護部長）



（編集後記）本間重子、池田資子、小島八重子の3人の新編集委員体制で『WWF K通信』の編集を担当することになりました。引き続き、内容の充実に努めていきますので、よろしくおねがいします。